

# 担い手別に見た醸造用ぶどうの生産状況

## 加工兼用種 (甲州、ナイアガラ等)



### 生食用ぶどう栽培農家

- ・生食用の一部を加工用に仕向け
- ・高齢化等で栽培面積減少
- ・山梨県は甲州の契約栽培を推進



### 醸造用ぶどう生産農家

- ・一部地域では醸造用ぶどう栽培農家グループが活動
- ・醸造用ぶどう専業農家はごく一部



### 個人ワイナリー

- ・様々な専用品種に取り組み
- ・安定した醸造量確保のため、農家からの買い取りも



### 中堅ワイナリー

- ・農家の高齢化に対応し、自社農園を拡大



### 大手ワインメーカー

- ・農地借入れにより大規模自社農園を開発



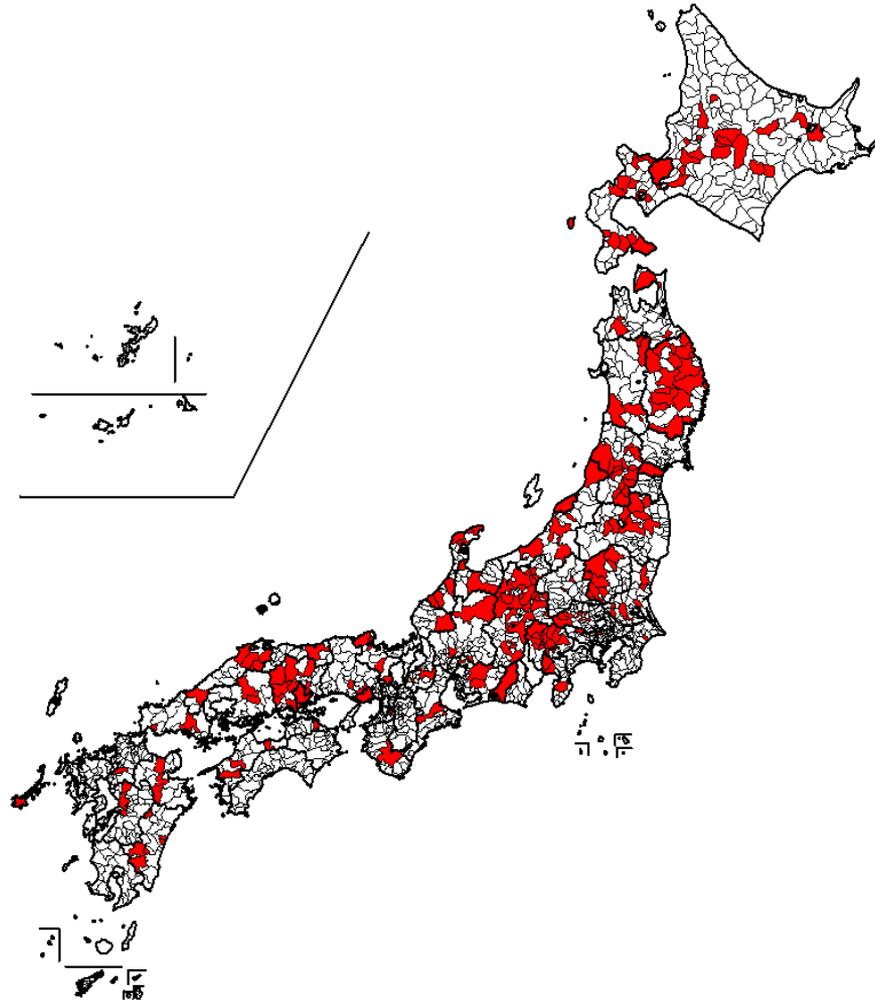
## 加工専用品種 (メルロー、シャルドネ等)



\* 山梨県、長野県等の事例を基にイメージとしてまとめたものであり、すべてが上記のように分類できるわけではない。

# 醸造用ぶどうを生産する市町村

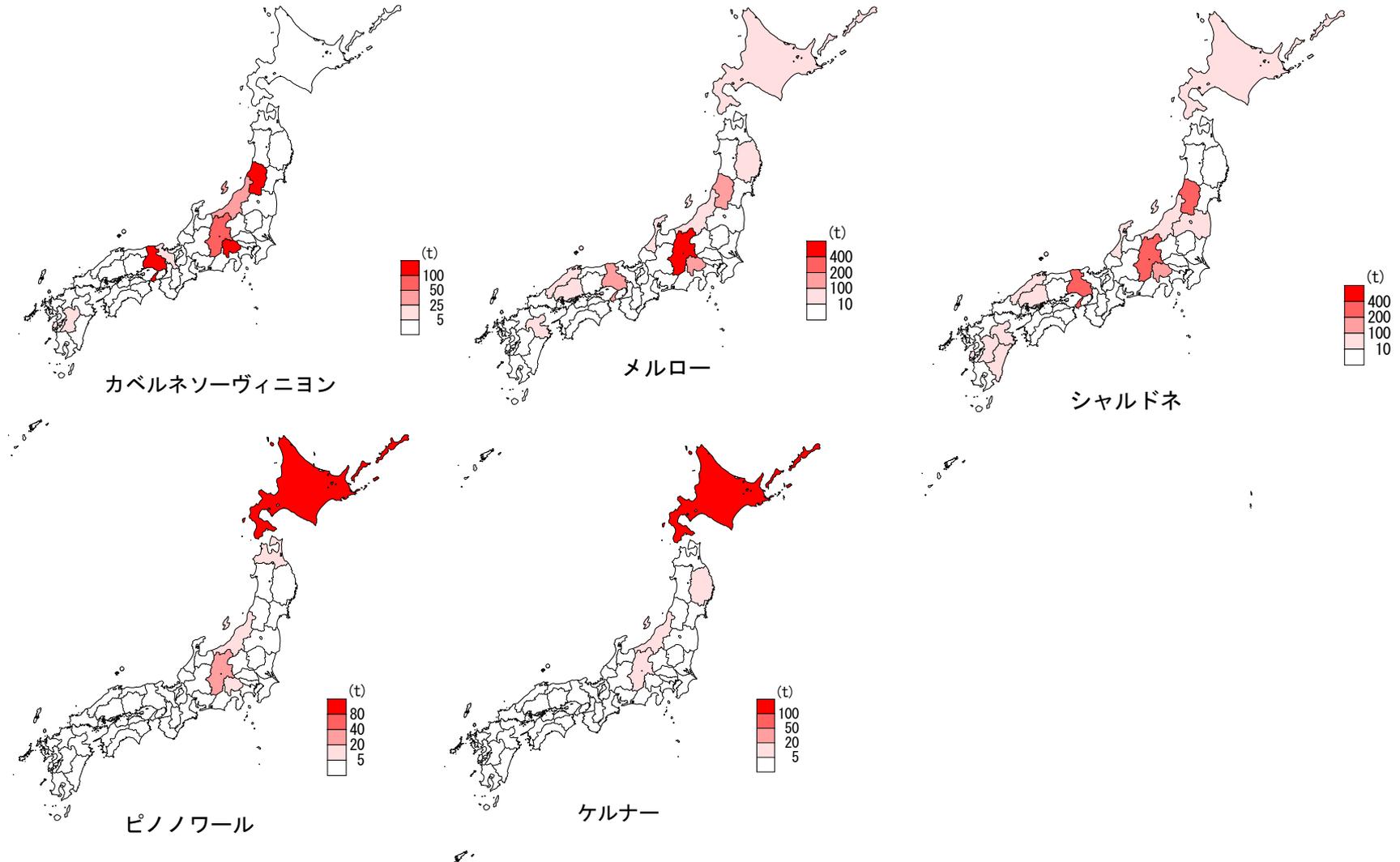
- 醸造用ぶどうの生産は、神奈川県、徳島県、高知県、佐賀県、沖縄県を除く42都道府県の223市町村で確認された。



注：農林水産省関東農政局調べ。

# 地域ごとの品種特性(加工専用品種)

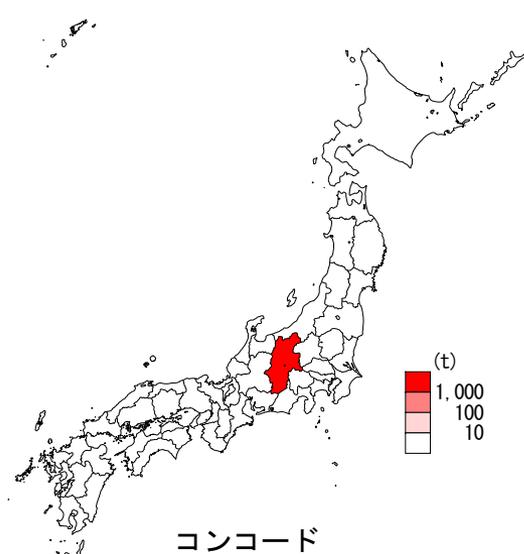
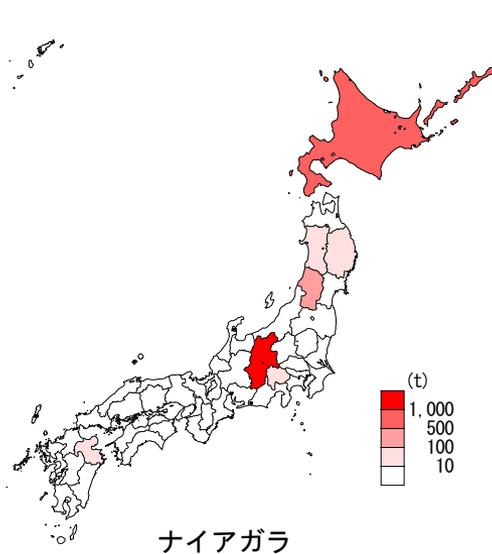
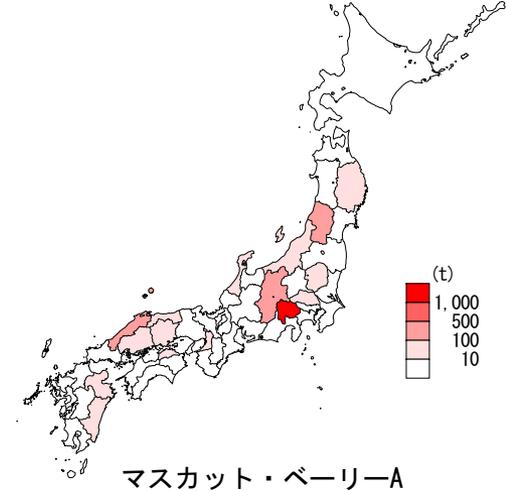
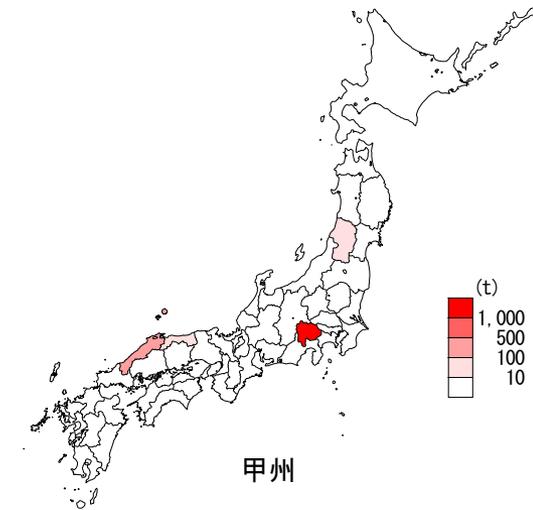
○ ワイナリーでの自社栽培の多い加工専用品種は、全国で多様な品種が植栽されている。



注: 農林水産省関東農政局調べ。

# 地域ごとの品種特性(加工兼用種)

○ 契約農家等による栽培が多い加工兼用種は、比較的、地域性が高い。

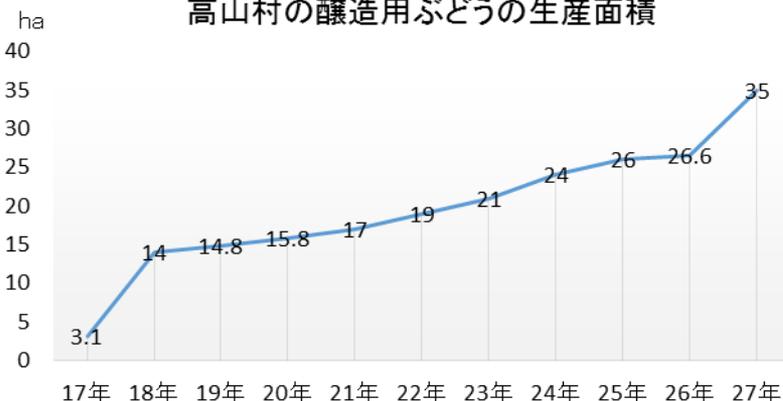


注: 農林水産省関東農政局調べ。

# 醸造用ぶどうの拡大で遊休農地を解消（長野県高山村）

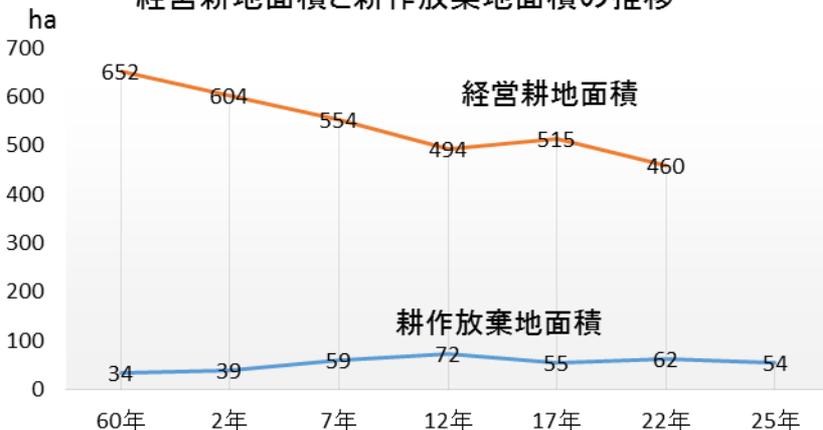
- リンゴのブランド産地として知られる高山村では、高齢化で遊休農地が増加し、鳥獣被害も拡大。村では、高齢者でも栽培可能な省力品種として、醸造用ぶどうに着目し、平成18年に「高山村ワインぶどう研究会」を立ち上げ、生産を拡大。
- 平成28年度を目標に、生産者出資によるワイナリーを設立予定。

高山村の醸造用ぶどうの生産面積



資料: 高山村調べ

経営耕地面積と耕作放棄地面積の推移



資料: 高山村調べ

## ○ ワインぶどうの圃場

シャルドネ、メルローを中心に栽培が拡大し、耕作放棄地の増加を抑止。



## ○ 建設事業者も醸造用ぶどうに参入

平成18年に県内建設大手の(株)角藤が県内初の株式会社の農業参入として、ワインぶどうの生産に着手。8.5haの一団の遊休社有地を活用して、大規模生産。

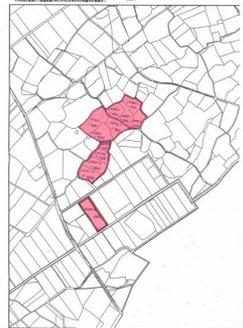


# 伝統産地でワインメーカーが新規産地を形成(長野県塩尻市)

○ 長野県一の醸造用ぶどうの産地・塩尻市では、農家の高齢化や都市化により醸造用ぶどうの生産面積が縮小。一方、地元メーカー、大手メーカー等が標高の高い地区等で専用品種の大規模生産を開始。



## 岩垂原地区



地元メーカーが農地中間管理事業を活用して、2.4haの農地を集積。

地元メーカーが圃場整備された水田を専用品種に転換。



## 柿沢・東山地区

桔梗ヶ原より標高が高い傾斜地の遊休地で、社会福祉法人、大手メーカー、地元メーカーが専用品種を大規模に生産。



## 桔梗ヶ原地区



生食用ブドウ農家がメルロー、コンコード、ナイアガラ等を生産するが、高齢化・都市化で生産減少。各ワインメーカーは離農農家の圃場を借り受け、自社農園を拡大。

地元ワインメーカーの栽培規模(試算)

	自社農園	契約農園
A社	20ha	110ha
B社	12ha	36ha
C社	11ha	44ha
D社	3ha	60ha

# 醸造用ぶどう生産の課題と支援策

- 近年、新規就農者や既存農家による醸造用ぶどうへの参入の動きが活発化している。
- しかしながら、果樹は収穫まで数年を要すること、醸造用ぶどうは生食用ぶどうに比べ収益性が低いこと、水田に比べ農地の集積が難しいことなど、振興を図っていく上での課題がある。
- このため、行政による支援策を上手に活用することが必要。

**長所** 圃場管理コストがかからない

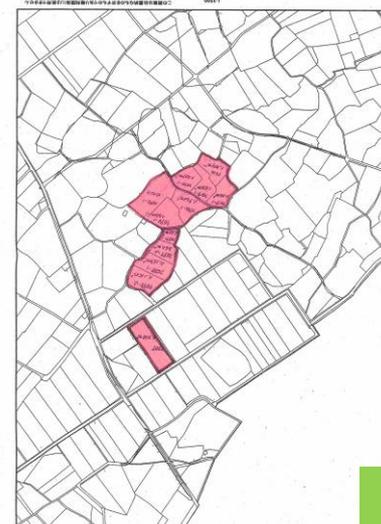
- ・ 栽培可能面積2～3倍

**短所** 単位面積当たり収入が少ない

- ・ 200～300円/kg
- ・ 生食用ぶどうの数分の1

- ① 規模拡大と農地の集積・集約化を図る
- ② 他作物との複合経営を図る
- ③ ワイン製造までの一貫経営を行う

農地中間管理機構により集積した醸造用ぶどうの圃場(長野県塩尻市)



## ○ 農林水産省による主な支援策

分野	支援内容
植栽	優良品目・品種への改植費用等を支援
農地	ばらばらに耕作されている農地の担い手への集積・集約化を推進
	耕作放棄地の再生作業を支援
	鳥獣の進入防止柵の整備
人材育成	先進農家で栽培研修を受ける場合の研修費用を支援
施設整備	6次産業化の取組に必要な加工・販売施設等の整備を支援